

第六次子どもプラン武蔵野 武蔵野市子どもの権利条例の反映について

1 『武蔵野市子どもの権利条例』における「子どもプラン武蔵野」の位置付け

令和5年4月に施行された『武蔵野市子どもの権利条例』では、子どもに関する施策を総合的に推進するための計画を定めることとし、「子どもプラン武蔵野」を当該計画に位置付けている。

(推進計画)

第30条 市は、この条例に基づき、子どもに関する施策を総合的に推進するための計画（以下「推進計画」といいます。）を定めます。

2 推進計画には、子どもプラン武蔵野（市が策定する子どもに係る基本計画をいいます。）を位置付けます。

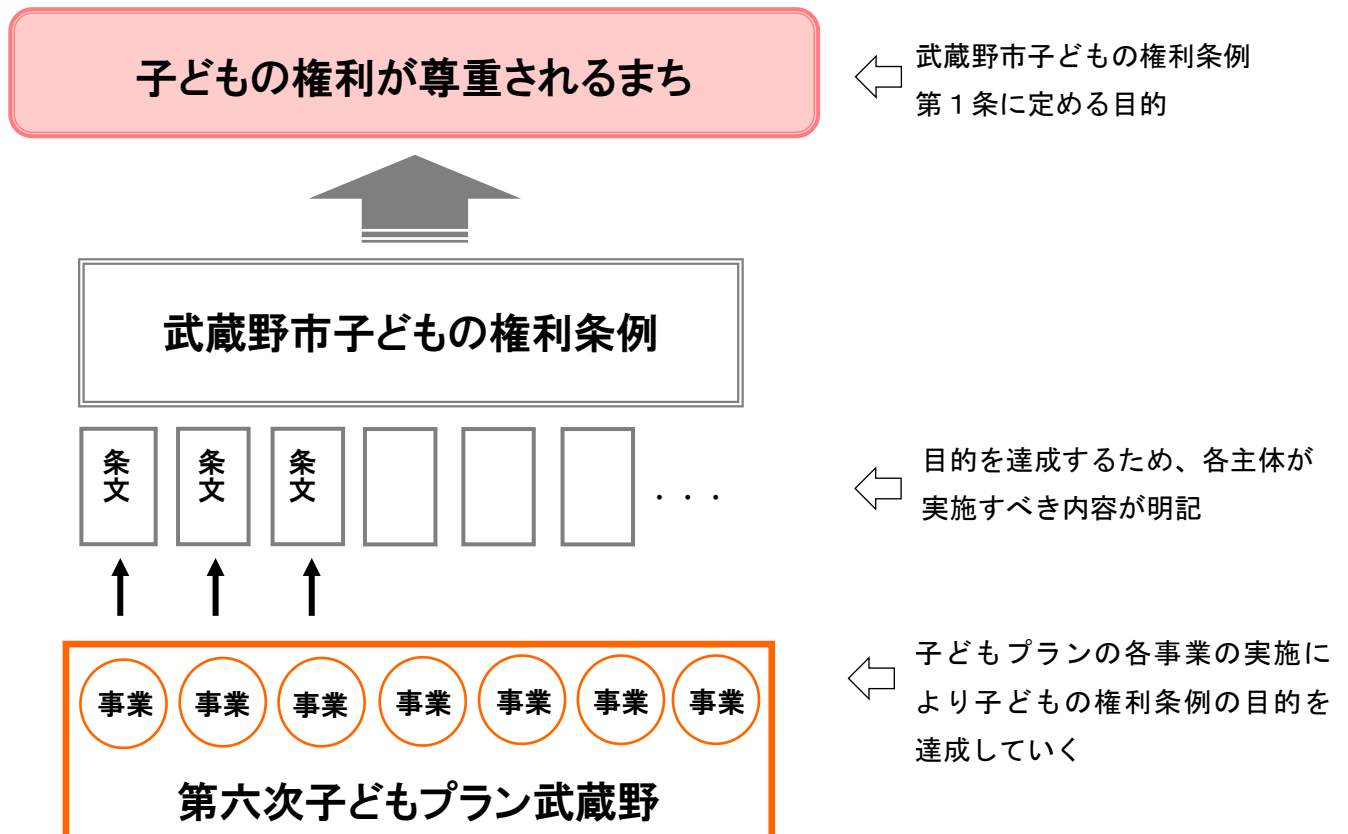
3 市は、推進計画に基づき施策を実施する際に、必要な調整、目標設定などを行います。

2 武蔵野市子どもの権利条例と子どもプラン武蔵野の関係性

『武蔵野市子どもの権利条例』では第1条（目的）において、「権利の主体である子どもが家庭、育ち学ぶ施設、地域などの一員として、自分らしく安心して暮らすことができるまち、子どもの権利が尊重されるまちをつくる」と定めている。

推進計画である子どものプラン武蔵野の各事業を実施することで、この目的が達成されることを目指すものとする。（条例と各事業と関係については別紙参照）

参考：『武蔵野市子どもの権利条例』と「子どもプラン武蔵野」の関係イメージ



3 子どもの権利部会での主な議論

●（部会長）資料●表の上、「子どもの権利を保障する取組みの推進」の4つ目「子どもの権利侵害に関する相談・救済」という項目にチェックがついている。武蔵野市子どもの権利条例を見ると、「武蔵野市子どもの権利条例の理解・普及啓発」や「子どもの権利に関する学習機会の確保」、さらには「子ども意見表明・参加の仕組みづくり」というところにもチェックが入ってもいいのではないか。

→（反映しました）

●（A部会員）これを見る方がどなたかによって、どれぐらいの内容が必要かわってくる。条例が子どもプランに大きく反映されているということを示すには、この簡易（条例各章×プラン各施策）バージョンでいいと思いながらも、詳細を知りたくなる方もいると思うので、目的によってどちらを出すかというところもある。

●（B部会員）これは、いろんな人に普及させるために、すごくいい材料と思う。どこが使うかによって、いろんなところが使えるのではないか。

例えば、市の役割がすごくたくさんあるので、使う機関によって、どこの課がどういうことをするというのまで落とし込んだら、さらに活用できるのではないか。

●（C部会員）2点ありまして、1つ目の資料の見せ方について、例えば資料●を見たときに、この結果をもって「どうなの？」と言うのであれば、そういうメッセージを入れたほうがいいと思う。

何が気になったかという点、この結果をもって今回の関連性を表しているが、関連性によって今回の目的「子どもの権利が尊重されるまち」は達成できているのか否かというところがあるのであれば、伝えたいです。パーッと見たときに、特に第7条はかなり手薄に見えるが、そこはこういう考えで大丈夫ということなのか、ここはウイークポイントがあるので今後こうしていきたいとか、そういうメッセージがあるんじゃないかなと思う。そういうものはあったほうがいいのかというのが1つです。

2つ目が、第7章です。「権利擁護の仕組み」という文言だけを見て話すと、実際の内容は、まさに擁護していく仕組みの部分になってくる。第1章から第6章で語ったことを継続的に仕組み化してやっていくみたいなことをやるのかなと思うので、むしろここが重要なんじゃないかなという気がしました。何かをつくって、それをちゃんと見ていくというところに手をかけていかないと、つくって、つくりっ放しみたいな形になるのではないというのが少し心配になりました。どこが大丈夫そうで、どこが弱そうだなということがわかっているのであれば、そこは書いたほうがいいのかという気がします。

●（部会長）B部会員の言う通り、それぞれの条文とそれぞれの課とそれぞれの事業がどんなふうに関連しているのかということを示す上でとても重要。そして、今後事業を検証していく際にも、この条例とこの事業がどんなふうに関連しているのかを考えていく。すなわち、子どもの権利を条例に基づきながら、どう実質化していくのかということを可視化するという意味においては、こうした条文との照らし合わせをつくってくださったのは本当にありがたい。こうした見せ方もあるし、もう少しざっくりとした見方もある。両方うまく使っていくことができればと思う。

○（事務局）部会長、C部会員がおっしゃったように、これは条例のやり方ですが、子どもプランの

評価で見ると、実は事業を1、2、3、4と1個1個見ていく。皆様には先ほど五次プランの評価も見ていただきましたが、1つずつできたかできないかという評価をします。そうすると、この星取表は、どこにプラスしてつけるかはありますけれども、この施策はできたのでこの部分はできたというのが、子どもプランを検証することによって、これも担保できるという形なので、部会長の言われたように、資料●2●の表は、表（おもて）にあらわすかあらわさないかはわかりませんが、プランの協議会としては両方持っていて、子どもプランを評価することによって、条例のこの部分は大丈夫だ、この部分が少し足りなかったと、全部ができていないかの評価ができる。これと子どもプランがセットになって、こちらも評価できる、検証できるという仕組みは残さなきゃいけないので、どちらにしても資料●2●のほうは必要なかなと私は思っています。そうすると、プランを評価することによって、これも同時に進捗評価できる。表（おもて）は資料●3●のほうでいいのですけれども、プランの協議会としては、資料●2●は必要になるかなと認識しています。

武蔵野市子どもの権利条例条文・内容一覧表

第1章	総則
第1条	目的
第2条	言葉の意味
第2章	保障すべき子どもの権利
第3条	子どもにとって大切な子どもの権利
第4条	子どもの権利の普及啓発
第5条	子どもの権利を学ぶ機会の保障
第3章	子どもの権利を保障するための役割
第6条	市の役割
第7条	市民の役割
第8条	保護者の役割
第9条	育ち学ぶ施設の役割
第4章	子どもを支える人々への支援
第10条	保護者と家庭への支援など
第11条	育ち学ぶ施設への支援
第12条	市民活動への支援
第5章	子どもにやさしいまちづくりの推進
第13条	自分らしく居られる場所
第14条	年齢、発達などに応じた居場所
第15条	多様な学びの場
第16条	子どもからの相談
第17条	子どもの意見表明
第18条	子どもの参加
第19条	子ども一人ひとりに合わせた支援
第20条	子どもからおとなへの移行支援
第6章	子どもの安全と安心の確保
第21条	子どもの安全
第22条	暴力、虐待及び体罰の防止
第23条	いじめの防止
第24条	武蔵野市いじめ防止基本方針と武蔵野市いじめ防止関係者連絡会
第25条	武蔵野市いじめ問題対策委員会
第26条	武蔵野市いじめ問題調査委員会
第7章	子どもの権利擁護の仕組み
第27条	武蔵野市子どもの権利擁護委員
第28条	相談・調査専門員
第29条	権利擁護に関する必要な事項
第8章	条例の推進体制
第30条	推進計画
第31条	評価と検証